

林道大父線御用橋 PCB 調査業務 特記仕様書

第 1 条 業務目的

本業務は、PCB 廃棄物の適正な処理のため、含有の疑いが高いとされる昭和 41 年から昭和 49 年の間に塗装された林道橋について、塗膜中の PCB、鉛、六価クロムの含有量を調査し、今後の林道橋再塗装における施工方法や、ばく露防止対策及び廃棄物の処理方法等の基礎資料とすることを目的とする。

第 2 条 調査対象

林道大父線 御用橋

第 3 条 塗膜有害物質分析調査

本業務で行う調査については、以下によるものとする。

(1) 計画準備

既存の資料の収集・整理を行い、業務に必要な作業計画、調査計画、工程及び作業編成、人員計画等の作成を行う。

(2) 現地踏査

高所作業車等を使用しない範囲で最適な塗膜採取場所を選定するため、現地の状況（現況交通状況、周辺環境状況、現地調査方法、施工ヤード等）を把握する。

(3) 現地塗膜採取

塗膜採取にあたっては、塗膜片を周囲に飛散させることがなく、作業員に汚染の心配がない安全な採取方法により行う。可能な限り、塗装の劣化等が比較的少なく、直射日光や水掛かりの影響を受けにくい箇所において 1 橋あたり 1 箇所（1 m²程度を想定：塗膜厚による）行うこと。

なお、塗装構成が異なる場合は、塗装構成毎に 1 箇所行うものとする。

(4) 調査結果とりまとめ

調査結果のとりまとめを行い、PCB 含有の有無、含有量及び塗替えに必要な概算費用の整理を行う。

(5) 報告書作成

本業務の調査結果等を取りまとめ、報告書を作成する。

(6) 打合せ協議

本業務では、業務着手時、中間報告時、業務完了時の3回を見込んでいる。

また、本業務を遂行する上で受注者は本仕様書に明記されていない事項、または疑義が生じた場合は、すみやかに発注者と協議すること。

第4条 その他

(1) 業務名は「林道大父線御用橋 PCB 調査業務」とすること。

(2) 業務期間は令和4年3月18日までとする。

(3) 現地調査の結果から橋梁点検車等の追加が必要と考えられる場合は、別途計上する。